

教育長 様

校番 94

呉商業高等学校長
全日制課程

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校
令和5年度 実施報告書**

1 学校の教育目標等

(1) 教育目標

「多面的・多角的に見て考えて、世に活かす」

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

○育てたい生徒像

- ①「三方よし」の理念を理解し、実践できる生徒
- ②夢や目標を実現させるために努力できる生徒
- ③課題に向き合い、より良く解決できる生徒

○育成を目指す資質・能力

- ①集団の一員として他者を思いやり、周囲と協力できる力
- ②主体的に学び、見通しをもってチャレンジできる力
- ③広く情報を収集し、深く考え、課題を解決できる力

(3) 学科等の特色

商業科・会計科・情報処理科の3つの小学科を設置しており、各学科でそれぞれの専門的な教科を学ぶカリキュラムとなっている。これまで呉商フェスタを柱に、販売実習やインターンシップ等の実践的・体験的な活動を通じた学びを行ってきたが、令和2年度入学生から1学年で「ビジネス基礎」に取り組み、令和4年度は2学年で「起業家精神」を学ぶプログラム「ビジネス探究EE」「コアラボI」を実施している。その学びを3学年の「課題研究」に繋げ、地域の様々な課題を自分ごととして捉え、ビジネスの視点をもった探究活動を行い、課題解決のためのビジネスプランを考えていくことを通して、課題発見力・解決力、情報収集力・活用力、データ分析力・活用力、協働力、論理的思考力、価値創造力、表現力といった力を身に付け、未来に向けて必要な自分らしく社会に参画していく生徒の育成を目指していく。

2 研究の概要

(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

- ①「ビジネス基礎」「ビジネス探究EE」「コアラボI」「課題研究」において、段階的に資質・能力を育成するビジネス探究プログラムの開発を行った。特に「課題研究」においては、地域の方々や広島大学と連携し、「自分ごと」として考え、確かな根拠に基づき、論理的に思考しながら、新しい価値を創造する探究活動のカリキュラムを開発する。
- ②目標・指導・教科の一体化の評価を行うために、「ビジネス基礎」「ビジネス探究EE」「課題研究」で育成したい資質・能力を明確化した。そして、ルーブリックによる生徒の自己評価を指導方法の改善につなげていくように取り組む。
- ③「ビジネス基礎」「ビジネス探究EE」「課題研究」の育成したい資質・能力と各教科・科目との関連を示すカリキュラム・マップを作成する。
- ④「コアラボI」において、「ビジネス探求EE」における学びをより深めていくため、ビジネスアイデアの具現化へ向けて行動する力を育成する。

(2) 1年後の目指す学校の姿

将来は産業界や地域社会の若手リーダーとして活躍することを目標とし、集団の一員として、他者を思いやり、周囲と協働でき、主体的に学び、見通しをもってチャレンジでき、さらに広く情報を収集し、深く考え課題を解決できる生徒を育成できる学校。

(3) 令和5年度の目標

ア アウトプット (活動指標)

- ・「課題研究」において、学校の枠を超えた地域と大学と連携したカリキュラム開発が作成されている。
- ・「ビジネス基礎」「ビジネス探究E E」「課題研究」の学習内容と、その他の科目で育成する資質・能力との関連を明らかにし、学校全体でカリキュラムマネジメントを意識した授業の展開の工夫が試みられている。
- ・「ビジネス基礎」「ビジネス探究E E」「課題研究」の学習内容と関連の深い教科とカリキュラム・マップが作成されている。
- ・「ビジネス基礎」「ビジネス探究E E」「課題研究」の育成を目指す資質・能力についてルーブリックを修正・追加し、教員による評価及び生徒自身による自己評価に活用し、生徒の学習状況を適切に評価することができている。
- ・「コアラボI」について「ビジネス探究E E」で身に付ける能力を伸長させ、起業家精神が育成されている。

イ アウトカム (成果目標)

- ・「ビジネス基礎」「ビジネス探究E E」「課題研究」の学習内容や成果発表会の評価を全教職員で行い、自分の教科で育成した力が探究の場面で発揮できているかが検証されている。
- ・年3回の相互授業観察において、カリキュラムマネジメントを意識した授業の展開の工夫を授業者と観察者で確認をし合い、改善案が立てられている。
- ・「ビジネス基礎」「ビジネス探究E E」「課題研究」で育成したい資質・能力と関連の深い科目とのカリキュラム・マップが作成されている。
- ・ルーブリックによる3以上の評価の生徒の割合は次のとおりであった。
「ビジネス基礎」多面的・多角的な視点 47%、「ビジネス探究E E」転換力及び意思決定力 53%、「課題研究」課題発見力 85%、課題解決力 81%。
- ・アンケートの結果、他者とコミュニケーションを通して問題解決に取り組む態度が身に付いている生徒の割合が72.4%となっている。

(4) 令和5年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア カリキュラムの核とする教科・科目等名

第1学年は、ビジネス基礎4単位、第2学年は「ビジネス探究E E」、第3学年は「課題研究」をカリキュラムの核とした。

イ カリキュラム開発の概要

(表1) 「ビジネス探究プログラム」育成したい資質・能力

| 科目 | 育成したい資質・能力 | | |
|-----------|-------------|------------|-----------|
| ビジネス基礎 | 表現力 (書く・話す) | 協働性 | 多面的・多角的視点 |
| ビジネス探究E E | 独創的発想力 | 計画実行力 | 自己研鑽力 |
| | 意思決定力 | 適応力 | 転換力 |
| | 批判的思考力 | コミュニケーション力 | |
| 課題研究 | 課題発見・解決力 | 企画設計力 | 論理的・思考力 |
| コアラボ | 起業家精神の育成 | | |

具体的には、3年「課題研究」において、2年で実施した「ビジネス探究E E」でのビジネスプランやグループで設定したテーマについて、地域で活躍されている方や地元企業、大学と連携して実社会を体感しながらインタビューし、アドバイスをいただきながらビジネスプランの実現性を高めていけるように実施した。

また、「コアラボ」で「ビジネス探究E E」「課題研究」で身に付けなければならない資質・能力をより深めるために起業家精神の育成を行った。そのためには、生徒の自由な発想を尊重し、その発想を科学的な裏付けのもと分析できる能力を育成した。

(例) 図1参照

「課題研究」広島大学総合博物館での地元小学生を対象とした啓発学習の実施

「ビジネス探究E E」広島大学、広島国際大学と連携し、ビジネスプランの研究を実施した。

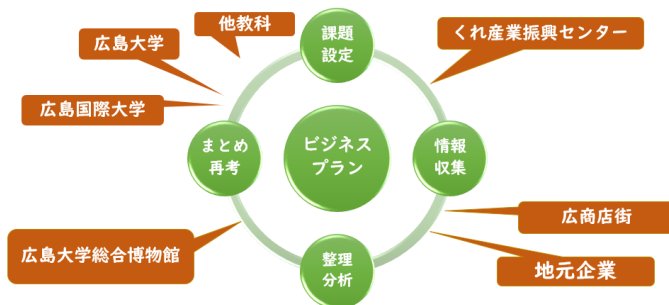


図1 課題研究の内容

「ビジネス基礎」キッチンカーやデザインファクトリー経営者による起業についての講話を実施した。
 生徒の資質・能力の成長の状況を確認するために、校内研修を夏休みに1度行い、生徒自身の評価と教職員が見取った生徒の変容を情報共有し、様々な教育活動に活かすように共通認識を深めた。
 8月 「教科横断的なカリキュラム・マネジメントの実現」に向けた研修会
 11月 公開授業研究会「教科横断的なカリキュラム・マネジメントを実現するための一考察」
 ウ 校内体制
 学科の特色を生かしたカリキュラム開発を全教員が参画して行うために、担当者で定期的に生徒の変容を確認しながらカリキュラム内容の確認・修正を行っていった。さらに、教科・学科主任会議では、「ビジネス基礎」「ビジネス探究E E」「課題研究」に関連して取り組む内容を各教科で協議し共有しながら、カリキュラム開発を進めた。

(5) 学習評価

「ビジネス基礎」においては、各単元で3つの評価の観点をそれぞれ1回見取れるように計画を立て実施した。その際、パフォーマンス課題は単元ごとに必ず実施した。また、学期に1回資質・能力の自己評価を行い、自己評価が低い項目については、改善策を担当者で話し合い次の指導に役立てていくように取り組んだ。

(6) カリキュラム評価

アンケートを年3回実施した。第1回の結果を受けて、各分掌や各教科で分析して、次へ向けての取組内容を各分掌、教科で検討し、教科・学科主任会議で取組内容を確認して実施した。

「ビジネス基礎」アンケート結果

| | | | | |
|------------|-----|---------|---------|-----|
| 表現力（書く・話す） | 1回目 | 31%→2回目 | 31%→3回目 | 34% |
| 協働性 | 1回目 | 39%→2回目 | 40%→3回目 | 37% |
| 多面的・多角的視点 | 1回目 | 50%→2回目 | 44%→3回目 | 47% |

「課題研究」

| | | | | |
|---------|-----|---------|---------|-----|
| 課題発見力 | 1回目 | 60%→2回目 | 75%→3回目 | 85% |
| 課題解決力 | 1回目 | 58%→2回目 | 67%→3回目 | 81% |
| 企画設計力 | 1回目 | 54%→2回目 | 81%→3回目 | 75% |
| 論理的・思考力 | 1回目 | 49%→2回目 | 72%→3回目 | 77% |

3 令和5年度の成果及び課題

(1) 成果

河合塾学び未来PASSコンピテンシー平均値

1学年 対人基礎力 2.85（全国 2.96）、對自己基礎力 2.67（全国 2.73）、
 対課題基礎力 2.42（全国 2.57）

2学年 対人基礎力 2.84（全国 2.93）、對自己基礎力 2.72（全国 2.71）、
 対課題基礎力 2.48（全国 2.59）

ルーブリックによる「ビジネス基礎」「ビジネス探究E E」「課題研究」で育成したい資質・能力のルーブリック評価結果においてレベル3以上である生徒の割合で70%以上となったのは「課題研究」のみであった。

「ビジネス基礎」、「ビジネス探究E E（転換力と意思決定力共に53%）」は目標値の70%には到達しなかった。

河合塾学び未来PASSコンピテンシー平均値は、1学年、2学年とも対人基礎力、對自己基礎力、対課題基礎力とも全国平均を若干下回っていたが（図2、3）、2学年の對自己基礎力の中の感情制御力 2.80（全国 2.65）、対課題基礎力の中の計画立案力 2.68（全国 2.63）の2項目については全国平均値を上回ることができた。（図3）

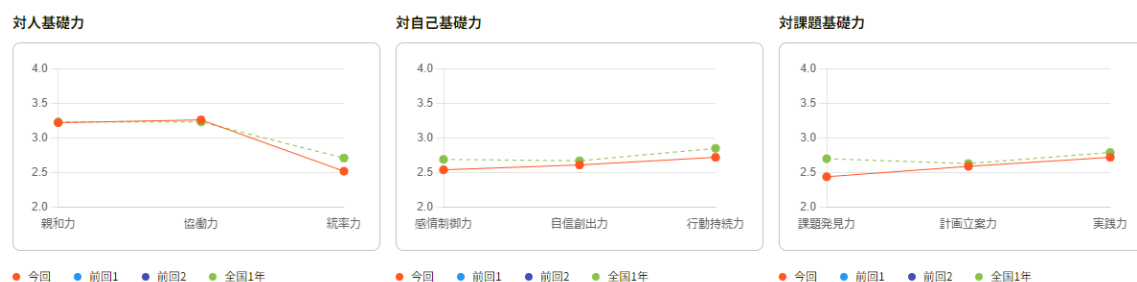


図2 河合塾学び未来PASS高1

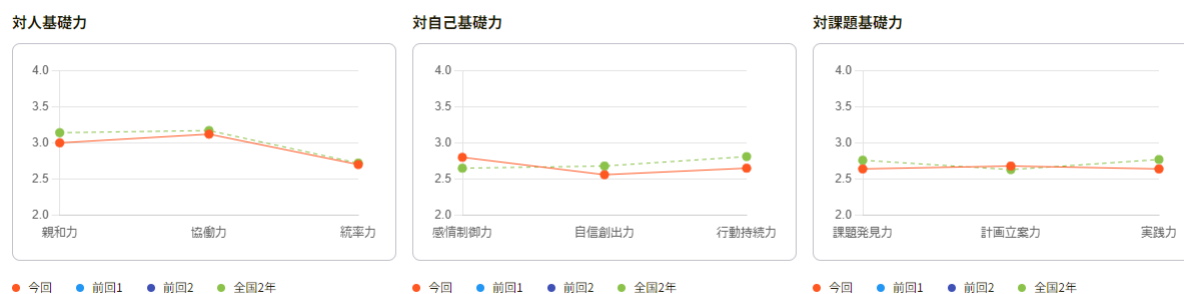


図3 河合塾学び未来PASS高2

「課題研究」については、生徒が課題意識をもったビジネスアイデアについて大学、地元産業界の方々の指導助言を参考に、情報収集→現状分析→課題・仮説設定→検証・考察→まとめ・再考を繰り返して学習を深めていった結果、生徒自身の学習への達成感が高くなりルーブリックの目標にある資質・能力の課題発見力、課題解決力、企画設計力、論理的・思考力を大きく伸ばすことができたと考えられる。

(2) 課題

「ビジネス基礎」、「ビジネス探究」については、ルーブリックの目標の項目について目標の70%を超えることができなかった。

それぞれの科目について授業評価アンケートでは身に付けたい資質・能力について肯定的な回答が「ビジネス基礎」91.6%、「ビジネス探究EE」92.3%と高い結果を示しているのであるが、具体的な資質・能力を尋ねたアンケートでは満足な成果は出すことができなかった。

また、河合塾学び未来PASSの結果も多くの項目で全国平均値を上回ることができなかった。

来年度は生徒の学力向上のために、1・2学年の「ビジネス基礎」、「ビジネス探究EE」については、内容を精査する必要がある。

4 令和6年度の研究目標及び取組内容

(1) 令和6年度の研究目標

ア アウトプット (活動指標)

- ・「ビジネス基礎」の学習内容について、学習指導要領に明示されている単元ごとに探究学習が、他教科の学習内容を活用し、より深い探究学習が実践できるような授業づくりを実施する。
- ・「ビジネス探究EE」、「課題研究」において育成を目指す資質・能力についてルーブリックを修正・追加し、教員による評価及び生徒自身による自己評価を活用し、生徒の学習状況を適切に評価することができる。

イ アウトカム (成果目標)

- ・「ビジネス基礎」の学習内容について、学習指導要領に明示されている単元ごとに探究学習が、他教科の学習内容を活用し、より深い探究学習が実践できるような授業づくりが実施できている。
- ・ルーブリックによる「ビジネス探究EE」、「課題研究」において育成したい資質・能力の評価結果が、レベル3以上である生徒の割合が70%以上になっている。
- ・アンケートの結果、他者とのコミュニケーションを通して問題解決に取り組む態度が身に付いている生徒の割合が70%以上になっている。

(2) 令和6年度のカリキュラム改善の内容及び校内体制

ア カリキュラム改善の概要

本校では、「ビジネス基礎」、「ビジネス探究EE」、「課題研究」を核として、生徒が各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、より探究の質を高めて主体的な学習や資格取得に繋げていくために、(表1)を育成するカリキュラム開発を継続して実施する。

具体的には、1年生の「ビジネス基礎」が学習指導要領の単元毎の学習目標を達成できるよう、現代の社会状況を考慮した教材として内容を精査し、生徒の探究学習がより深まるよう他教科との連携を深めた学習を実践する。

「ビジネス探究EE」、「課題研究」については、地元企業、大学と連携して実社会を体感しながら、地域の課題解決に向けた実践的な探究学習となるように、他教科との連携を深めるために教員も研鑽を積むようにする。

そのためには、多くの高校が参加している全国規模のビジネスアイデアを競うコンテストにも積極的に参加し、生徒の学びをより深め研鑽を積むようにする。

イ 校内体制

全教員が参画してカリキュラム開発を行うために、教科担当者会議を定期的を開催し、生徒の変容を確認しながらカリキュラムの内容を精査していく。